

令和7年4月1日

令和7年度 波佐見町立南小学校 学校経営方針 ～行きたくなる学校・帰りたいとなる家庭・住みたいとなる地域～

校長 馬場 利浩

I 経営方針

本県及び本町の教育方針・努力目標に基づき、校訓「かしこく つよく 明るく」の理念を尊重し、地域の実情及び児童の実態を踏まえ、確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる実践力をもった児童を育成することに努める。そのために、全職員が教育者としての使命感と責任感を自覚し、英知を結集し、協力して本校教育の充実・発展に努め、保護者や地域に信頼される学校を創造する。さらに、保護者、地域社会と連携・協力し、共に育てていく中で、南小学校で学ぶ喜びを共感し、学校教育目標「未来を拓く心豊かな南っ子」の育成を目指していく。

本校は、昨年度まで2年間、県教育委員会の「人権教育」の研究指定を受け、学びを深めた。人権が尊重される様々な取組が子どもと教職員一人一人に浸透し、さらにそれが日常の姿となったとき、誰もが安心して学び、自己実現と自らの成長を実感できる空間となる。そのような学校ならば、子どもは喜んで登校するはずである。そんな学校を「行きたくなる学校」と定義した。

今年度は、その継続を土台としながら加え次の2つを加えたい。

「帰りたいとなる家庭」と「住みたいとなる地域」である。

子どもは、「家庭で育まれ、学校で鍛えられ、地域で磨かれる」と考える。学校の教育活動で鍛えられた子どもに、家庭での休養は不可欠である。精一杯学んだ子どもが「早く帰りたい」と帰りを急ぐ温かで安心できる家庭であって欲しいし、そんな家庭に帰った子どもは、きっと明日への学びの意欲を高めるはずである。

また、子どもが、ふるさと波佐見町の人・もの・ことのよさを知ること、で、「ずっと住みたい」「離れても、いつか戻ってきたい」そう思わせたい。何よりふるさとを愛する心情を育みたい。その心情は長い人生において自身を支える柱になると考えるからである。

「行きたくなる学校、帰りたいとなる家庭、住みたいとなる地域」の創造のためには、学校の教育活動の充実を始めとして、PTAや学校運営協議会、南っ子支え隊、地域の企業や団体等との連携が不可欠である。先生方におかれても、これまで以上に視野を広げ、この3つの視点から授業作りや学校行事の再構築を願いたい。

2 校 訓

かしこく つよく 明るく

3 学校教育目標

「未来を拓く 心豊かな南っ子」

(1) 「めざす子ども像」と、その実現のために力を入れること

○ 認め合う 明るい 子ども（徳育）

- ・ 互いの良さに気付き、励まし合い、助け合うことのできる子ども
- ・ やさしい心を持ち、他人の痛みを感じることが出来る子ども
- ・ 礼儀正しく、節度があり、感謝することが出来る子ども

〈数値目標〉 いじめ未解決ゼロ、不登校ゼロ

- ・ すべての教育活動の根幹に「人権尊重の精神に立つこと」を据える。
- ・ 特別の教科「道徳」を重点とし、全教育活動を通した心の教育を推進する。
- ・ 友達と自分との違いを認めながら、友達の良さに気付かせる。
- ・ 係や当番の仕事などでは、自分たちで決める機会を増やし、友達と助け合い、高め合わせる。
- ・ 正しい言葉づかいをし、気持ちの良い挨拶・返事ができるように指導する。
- ・ いじめを絶対に許さない。
- ・ 「ならぬことはならぬ」といった毅然とした指導を行う。
- ・ 感謝の心を持って行動させる。

○ 考える かしこい 子ども（知育）

『人権教育の充実が学力向上につながる』を合言葉に・・・

- ・ 他の人の思いや考えをよく聞き、自分を磨こうとする子ども
- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を身に付けた子ども
- ・ 目標を持って、主体的に学習に取り組む子ども

〈数値目標〉 ・ 標準学力テストの「目標値」

・ 図書の貸し出し冊数の増加（昨年度の同学年）

- ・ 友達と意見を交わし合い、学びを深めようとする態度を養う。
- ・ 自分の力で考え、よく聞き、表現しようとする態度を養う。
- ・ 課題をつかみ、進んで解決しようとする態度を養う。
- ・ 振り返りの言語化（文章化）を徹底する。
- ・ 家庭学習の習慣化を図る。
- ・ I C Tの活用と具体物活用のバランスを図る。
- ・ 読書に親しませる。

○ やりぬく つよい 子ども（体育）

- ・ 基本的生活習慣を身に付け、規則正しく健康な生活のできる子ども
- ・ 自分のめあてを持って、ねばり強く最後までやり遂げる子ども
- ・ 困難や逆境に負けず、力強く生活することのできる子ども

〈数値目標〉スポーツテストの向上を図る（前年度を上回る。）

う歯治療率の向上（前年度を上回る。）

- ・ 早寝、早起き、朝ご飯を徹底させる。
- ・ 成長に必要な、困難に耐える力を身に付ける。
- ・ 外遊びを奨励する。
- ・ 換気、手洗い、うがいを徹底する。
- ・ 歯磨き指導を徹底する。
- ・ 交通安全指導を徹底する。

（２） めざす学校・家庭・地域像と、その実現のために行うこと

○ 子どもにとって、行きたくなる学校

- ・ 一人一人が大切にされる学校
- ・ 憧れに出会える学校
- ・ 先生が大好き、先生みたいになりたいと思う学校

- ・ 子どもと教師の信頼関係の構築
- ・ 「わかる授業」に努める。
- ・ 授業への地域人材の積極的な活用を進める。

○ 子どもにとって、帰りたくなる家庭（仮）

- ・ 一日の疲れを癒やすことのできる家庭
- ・ また明日もがんばろうという気持ちになれる家庭

- ・ 安心できる。
- ・ 生活リズムが整っている。
- ・ 望ましい食事や睡眠が保たれている。

○ 子どもにとって、住みたくなる地域

- ・ 安心して遊べる地域
- ・ 子どもの名前を知っている人が多い地域
- ・ 教育活動に協力してくださる地域

- ・ 交通安全ボランティアの皆さんとの連携
- ・ 南っ子支え隊の隊員増加

(3) めざす教職員像

- 子どもと共に行動し、寄り添う教職員
 - ・ 子どもの成長を信じ、深い愛情を注ぐ教職員
「あなたはきっとできるようになる」「あなたはきっと解けるようになる」
「あなたはきっと・・・」周りの誰もがあきらめても、私(教師)は信じてる。
この言葉を言い続ける教師
 - ・ 何事にも自ら積極的に動き、取り組む教職員
 - ・ 毅然とした態度で信念を持って指導にあたる教職員
- 子どもと共に学ぶ教職員
 - ・ 個々の子どもの課題を把握し、解決に導く教職員
 - ・ 分かる授業をめざし、常に自己研鑽に励む教職員
 - ・ 教えるプロとしての自覚を持った教職員
- 保護者・地域と連携する教職員
 - ・ 子どもとともに歩む姿を通して、保護者に信頼される教職員
 - ・ 地域の「ひと・こと・もの」を活かし、教育活動を活性化できる教職員
 - ・ 教育公務員としての自覚と責任のある教職員

5 教職員・児童の事故根絶に向けて

- 問題となる事象や事故発生の可能性を予見する力
 - ・ 子どもの変化、同僚の変化に気付く
- 報告・連絡・相談は細大漏らさず。